歴史建造物並み街

藩政時代から明治・大正、
そして近代までの建物が
穏やかに時を刻む、弘前の街。
時間旅行に出かけませんか。

青森銀行記念館（旧第五十九銀行本店本館）

重要文化財

ルネサンス様式を基調としながら木造の外壁に瓦を敷き詰め、漆喰を厚く塗り込めて防火に配慮するなど、和洋折衷の独特の趣がある青森銀行記念館は明治37年（1904）、第五十九銀行本店本館として建設されました。装飾革を和紙で摸した金唐革紙が天井を華やかに飾り、照明器具を吊すメダイオンには漆喰のレリーフ。数々の洋風建築を手がけた明治の名工・堀江佐吉が技術の粋を集めた傑作です。

●青森銀行記念館☎0172-33-3638

金唐革紙が天井を飾る

旧弘前市立図書館

県重宝

教会を思わせる八角形の双塔をもつ対称形。ルネサンス様式を基調としながら漆喰塗りの外壁や木鼻を用いて庇をせり出させるなど随所に和の様式が取り入れられています。明治39年（1906）に第八師団関係の工事や納入で大きな利益を得た斎藤主（つかさ）や堀江佐吉など5名の篤志家が新設し、市に寄付しました。

●弘前市文化財課☎0172-82-1642

せり出させたひさしなど、見事な和の造作

ひろさき街歩き

路地裏。そこにはタイムスリップしたかのような懐かしさや温かさ、好奇心と想像をかきたててくれるトキメキがあります。迷い込みたくなる路地裏を探索すると、ちょっと違う街の表情がみえてきます。

●弘前観光コンベンション協会☎0172-35-3131

県重宝

日本基督教団弘前教会教会堂

明治8年（1875）創設の東北最古のプロテスタント教会。高さ20mの双塔を有し、規模は違うもののパリのノートルダム大聖堂とそっくりな姿を木造で表現しています。現在の礼拝堂は明治39年（1906）の建設で、正面左右に入口が設けられているのは、かつて男性と女性の入口を分けていた名残です。襖や畳敷きの部屋もあり、伝統工芸である津軽塗りの天板をもつ聖餐台やあけびづる細工の献金籠と、洋の趣と弘前らしさが融合しています。

●日本基督教団弘前教会☎0172-32-3971

津軽塗りの聖餐台とあけびづる細工の献金籠

ジョン・イング

弘前の小咄。

本多庸一とともに日本基督教団弘前教会を設立したジョン・イングは明治7年（1874）に3代目の英語教師として東奥義塾に赴任し弘前でキリスト教の伝道を進めます。クリスマス会で生徒や信者たちに西洋りんごをごちそうし、栽培の指導もしたといわれるなど青森県に初めてりんごを伝えたとする説もあります。

壁から天井へ弧を描くクロスリブヴォールト

カトリック弘前教会聖堂

優美な尖塔や左右の柱型などロマネスク様式を取り入れた聖堂は明治43年（1910）、オージェ神父が設計し堀江佐吉の弟でカトリック信者だった横山常吉が施工したと伝わります。リブヴォールトと呼ばれるアーチ状の天井が広い空間をつくり、高窓には神の人間への救いの歴史を表現したステンドグラス。礼拝用椅子の下には冬の寒さをしのぐための畳も敷かれています。高さ8mの祭壇は慶応2年（1866）につくられ、オランダの聖トマス教会にあったものを特別に譲り受けたものです。

●カトリック弘前教会☎0172-33-0175

米国製のリードオルガン

県重宝

日本聖公会弘前昇天教会教会堂

赤レンガが印象的な平屋建ての教会堂。全体をゴシック様式でまとめ、三角塔の鐘はトレフォイルという三葉形のアーチに納められています。J・M・ガーディナーの設計とされ、いたるところに施された三葉形、四葉形の造作はそれぞれ「三位一体」「十字架」を意味します。襖の奥に礼拝堂があり、レンガや漆喰、トラス梁木などの構造材が表現する素のままの構造美はノアの方舟を象徴しているとされます。ミサでは明治時代に女性宣教師が持ち込んだといわれるリードオルガンが美しく響きます。

●弘前市文化財課☎0172-82-1642

イギリス積みの素朴なレンガ建築

朝夕に音を響かせる聖鐘

梁や柱に青森県産ヒバを使用

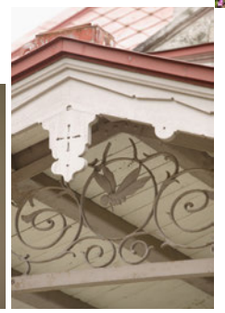
弘前厚生学院記念館（旧弘前偕行社）

重要文化財

明治40年（1907）に陸軍将校たちの親睦・研修施設として建設された旧弘前偕行社は堀江佐吉が関わった最後の作品です。華麗で優美なルネサンス様式の特徴を穏やかに表現した平屋建ての建物で庭園と洋風建築が調和しています。玄関ポーチのペディメントに「八」をもじった「蜂」の鉄製飾りがあり、ユーモアを感じさせます。

●旧弘前偕行社（弘前厚生学院記念館）
☎0172-33-0588
※保存修理中のため見学不可
（2017年9月まで）

アカンサスをモチーフにした繊細な漆喰細工



遊び心を感じる「蜂」の装飾

登録有形文化財

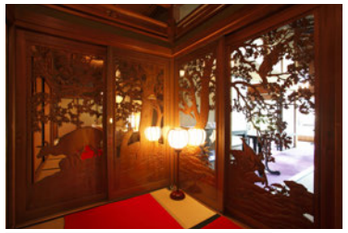
旧藤田家別邸洋館＆和館

赤いとんがり屋根の塔を持つ洋館は大正10年（1921）、堀江佐吉の子孫が建設。玄関両側の柱や煙突、土台部分は規則的にレンガを配置する中に素材の異なる大きな石をあしらうモダンな装飾が施されています。岩木山を眺望する借景式庭園の中にある和館は、大正時代に建てられた当初の和館が焼失したことから、昭和36年（1961）に板柳町の旧家を移築したもの。庭を望む奥座敷まわりに縁側を巡らせ、庇を一段下げてかける屋根を張り出すなど陰影に富む空間を演出しています。

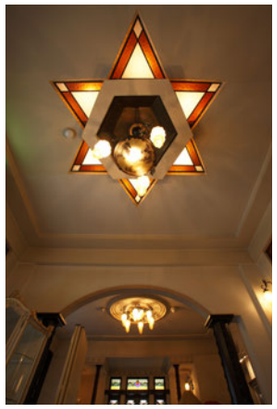
●藤田記念庭園事務所☎0172-37-5525

手入れの行き届いた庭が広がる

躍動感ある彫刻扉は横山白汀作



床一面に敷かれたドイツ製タイル



ぶどうモチーフのシャンデリア

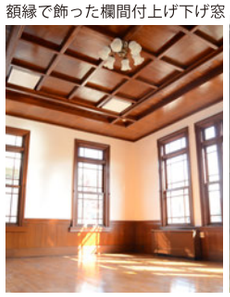
登録有形文化財

翠明荘（旧高谷家別邸）

明治28年（1895）建築の奥座敷や昭和9年（1934）に建設された旧洋館や日本館などを有する広大な屋敷は、第五十九銀行（青森銀行の前身）頭取・高谷英城の別邸として建築されました。フランク・ロイド・ライトの作風を摸した洋館内部はタイルや扉のガラス、大理石、装飾壁の紫檀などに当時たいへん珍しい外国産のものが用いられています。日本館は本座敷と次の間、玄関などに銘木を使用したり技巧を凝らした欄間や建具が設けられ、天井には金箔を貼るなど贅を尽くした建築です。

●奥膳懐石翠明荘☎0172-32-8281

額縁で飾った欄間付上げ下げ窓



登録有形文化財

弘前市長公舎（旧第八師団長官舎）

柱や梁などを外壁に露出させたハーフティンバー風の洋館は大正6年（1918）、第八師団長官舎として建設。市役所の新築にともない3分の2が解体、残りが曳家され「弘前市長公舎」として保存・公開されています。玄関中央部に鋭角の切妻破風、屋根には3つのドーマー窓を設け、大正ロマンを感じさせます。

●弘前市財産管理課☎0172-35-1120

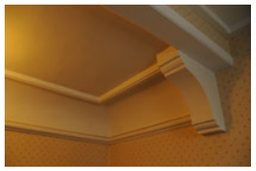
県重宝

旧東奥義塾外人教師館

レンガ積みの基礎とたくさんの窓が特徴的な建物は東奥義塾で招いた外国人教師の住居としてアメリカのメソジスト伝道本部が設計したと伝わります。1階東側の張り出し窓にはバージボード（飾り付板）と呼ばれるアメリカ建築特有の飾りを施し、繊細さを添えています。内部は白漆喰を主体とするシンプルな仕上げですが折り上げ天井や帯状の装飾などで空間に変化をもたらしています。

●弘前市立観光館☎0172-37-5501

白漆喰の天井とメルヘンチックな色壁の対比が面白い。



重要文化財

弘前学院外人宣教師館

弘前女学校（現在の弘前学院大学）に派遣されたアメリカ婦人宣教師のための宿舎として明治39年（1906）に建設。八角形の平面をもつ尖塔部分が軽快な雰囲気を演出し、ドアノブやちょうつがいにも装飾的なものを用いるなど全体的に女性を意識した繊細で優美な建物です。内部には階段が2つあり、幅の狭い直階段は家族と使用人の動線の交錯を避けるためのサーヴィス用の階段と考えられ、母国に近い造りになっています。

●学校法人弘前学院☎0172-34-5211

アカンサス模様の飾りと幾筋にも重なるモールディング

登録有形文化財

旧制官立弘前高等学校外国人教師館

屋根の形がいびつに見えますが本来は2棟が並び建ち、シンメトリーになるよう設計されました。大正14年（1925）の竣工で、シンプルな外観は使用人を使わず主婦が家事を切り盛りし、居間を中心に置くアメリカ中産階級のバンガロー住宅に起因するため。一見すると大理石製の暖炉は、漆喰と墨を用い、高度な技術で造られています。

●弘前大学☎0172-36-2111

漆喰と墨で大理石を摸した暖炉

軍都・学都ひろさき

弘前の小咄。

明治・大正期の洋風建築が数多く残る街、弘前。その背景には「軍都」、「学都」として歩んできた歴史があります。弘前では明治5年（1872）に藩校「稽古館」を母体とする私塾「東奥義塾」が、同19年（1886）にはミッション・スクールである来徳女学校（現在の弘前学院）が開校し英語教育のため招聘した外国人教師らの住居や布教のための施設が建設されていきます。明治29年（1896）には第八師団本部が置かれ、司令部や偕行社などが誕生しました。

前川國男

モダニズム建築の提唱者であるル・コルビュジェに師事し、日本のモダニズム建築の旗手といわれた建築家、前川國男。母の出身地であり縁の深い弘前には彼の処女作から晩年の作品までをまとめて見ることができます。

木村産業研究所

白を基調にした外装と横に連ねた規則正しい連続窓。一見すると単純ですが、エントランスポーチの吹き抜けで陰影を演出し、天井には赤色のアクセントカラー。ル・コルビュジェ風の建物は前川國男の処女作として昭和7年(1932)に生まれました。施主の木村隆三と前川がパリで親交を深めていたことから実現した大胆なモダニズム建築です。

●弘前こぎん研究所☎0172-32-0595

弘前中央高校講堂

昭和29年(1954)に竣工した講堂は、軸をずらした独特な開閉方式の正面入口ドアや、水色の壁、軒裏の赤が印象的。ホワイエ天井は2階席の段差が露出し、斜めに配置された梁とあいまって軽やかさを与えています。音響効果を考慮した形状やステージ裏の通路など劇場としての機能性も重視され、弘前の市民劇場としての役割も果たしていました。

※学校敷地内へ立ち入っての見学はご遠慮ください

弘前市庁舎

長大な4階建ての建物に2段の大きな庇を出し、鉄筋コンクリート打ち放しの骨太な柱と梁のフレームにレンガブロックを積んだ堅牢な弘前市庁舎は昭和33年(1958)竣工。吹き抜けを設けるなど開放的な空間を造りだし、正面玄関の真上に群青色、階段側面には赤い色と色彩の工夫もみられます。

●弘前市財産管理課☎0172-35-1120

弘前市民会館

打ち放しのコンクリートの表面には木板の型枠で造られた木目肌があらわれ、周囲の木々と調和しています。銅パイプでつくられた煌びやかなシャンデリア。エントランスポーチ上部の開放的なテラスからは岩木山を望めます。昭和39年(1964)、学都弘前のシンボルとして誕生しました。

●弘前市民会館☎0172-32-3374

弘前市立病院

昭和46年(1971)建設で木板の枠型の跡が残るコンクリート打ち放しの外壁に対して内部の白い壁や柱がコントラストをみせます。増改築を重ねましたが、エントランスホールの開放感が前川建築の特徴を表しています。

●弘前市立病院☎0172-34-3211

弘前市立博物館

周囲と調和する深みのある赤茶色の打ち込みタイル。弘前で初めて打ち込みタイルが使用された建物で、隣接する市民会館と対照的な印象を与えます。借景も展示品の一つ、という考えから、天井までのびるロビーの大きなガラス窓からは弘前城の未申櫓が見えます。昭和51年(1976)の作品です。

●弘前市立博物館☎0172-35-0700

緑の相談所

前川建築では珍しい、和風の勾配屋根。しかし裏側ではフラットルーフの建物が展開し、L字型の建物は前後で印象が異なります。この配置は「日本最大幹周のソメイヨシノ」を避けるため。昭和55年(1980)の竣工です。

●弘前市役所 緑の相談所☎0172-33-8737

弘前市斎場

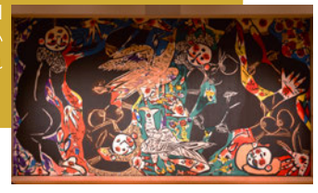
弘前における最後の作品が昭和58年(1983)に完成した弘前市斎場です。重厚な勾配屋根にダイナミックな格子梁。遺族たちが待つ和室から緩やかなスロープの渡り廊下で繋がる炉室を窓越しに見えるように設計し、故人を偲ぶ遺族に寄り添う心遣いが感じられます。

●弘前市斎場☎0172-32-0643

棟方志功・作 市民会館の緞帳「御鷹揚げの妃々達々」

弘前の小咄。

制作にあたり前川事務所を訪れた志功は何種類もある色見本から直感で迷わず色を指定し、その感性に前川もいたく感心したといわれています。



吉野町煉瓦倉庫＆Memorial dog

弘前の街なかに建つ広くモダンな倉庫は明治40年(1907)建設。ここは明治・大正にかけて、酒造界に一大革新をもたらした福島藤助が建造しました。「これらの建物が市の将来のために遺産として役に立てば」との想いから、彼はこの建物以外にも弘前市内に数多くの赤レンガ造りを残しています。かつて季節を問わず日本酒をつくる「四季醸造」が行われ、戦後には日本で初めてシードルが本格的に生産され、日本の新たな酒造りの舞台となってきた倉庫は、ここだけ時が止まっているかのように静かに佇んでいます。また、隣接の緑地公園に建つ高さ3m、全長4.5mもある巨大オブジェ「AtoZ Memorial Dog」は、2006年に煉瓦倉庫で開催された、弘前市出身の現代美術家・奈良美智の展覧会を記念して作られました。

石場旅館

登録有形文化財

黒塗りの付け柱や梁と白漆喰のコントラストが城下町の情緒を醸し出す石場旅館。明治12年(1879)の開業当時は現在の玄関がある前部分だけで、蔵や井戸は外にありましたが、増築を繰り返し、蔵や井戸を建物の中に取り込み、入り組んだ間取りの建物になりました。内部には屋号である「一八〇(いちやまる)」が入った磨りガラスのガラス戸や菊花紋様の入った磨りガラスなど珍しいガラスがはめ込まれています。

●石場旅館☎0172-32-9118

増築部分をつなぐ太鼓橋の渡り廊下

一戸時計店

赤い円錐屋根の時計台が街のシンボルとして親しまれる一戸時計店。明治30年頃に三原堂弘前支店が建設した当初は平屋に時計台を持った建物でしたが、大正9年(1920)に一戸時計店が譲り受けた後に2階建てに改造され、現在に至っています。

●一戸時計店☎0172-32-1780

弘前市立百石町展示館（旧青森銀行津軽支店）

市指定文化財

明治16年(1883)に、弘前の豪商・宮本甚兵衛が呉服屋として建築。防火対策を第一に考えて土蔵造りとし、軒を張り出した「こみせ」を設けていましたが、大正6年(1917)に津軽銀行に譲渡されると新たにレンガ積みの腰壁と漆喰塗りの壁の仕切りが設けられ、正面中央には円柱を配置したポーチ。屋根は瓦から鉄板葺きにするなど大改装が加えられ、現在の姿になりました。

●弘前市立百石町展示館☎0172-31-7600

重要文化財

石場家住宅

軒から庇を長く張り出し、下を通路にする「こみせ」。漆喰塗りの土壁と黒塗りの木部が落ち着いた雰囲気を醸し出します。建築年代は江戸時代中期と推定され、出入口の天井に「しとみ戸」と呼ばれる跳ね上げの大戸を収納し、閉店時に下ろして戸締まりします。

●石場屋酒店☎0172-32-1488

旧弘前市消防団西地区団第四分団消防屯所

弘前の小咄。

石造りの神殿を思わせる太い付け柱や2階屋根のアーチ部分が特徴的。望楼付の屯所は昭和8年(1933)建設といわれています。屯所脇の亀紺橋を架け替えの際に付近住民のアイディアで橋の中ほどに半円の出っ張りをつくり、撮影スポットにしました。

仲町伝統的建造物群保存地区

仲町という町名はなく、弘前城の東側を上町、岩木川までの西側を下町、その2町に挟まれた町々を総称して仲町と呼びます。板塀やサワラの生け垣が続く街並では武家屋敷も保存・公開されており、武家町の風情を醸しています。

●弘前市文化財課☎0172-82-1642

旧岩田家住宅

県重宝

こぢんまりとした茅葺きの住宅は寛政時代末から文化年間（1789〜1818）頃の建築と推定される中級武士の屋敷です。現在地にあったものを保存修理し、公開しています。門や敷地の利用についても当時のままであり、武士の生活を間近に感じることができます。

旧伊東家住宅

県重宝

代々弘前藩の藩医を務めた伊東家の住宅も元長町からこの地に移転、復元されています。江戸時代後期に建築された、中級武士の居宅と似た、慎ましやかな建物です。元藩医の住宅では、県内に現存する唯一のものです。

旧梅田家住宅

茅葺き屋根の旧梅田家は嘉永年間（1848〜54）に在府町に建てられました。100石取りの武士の住居でした。天井がないため、屋根を支える構造がよく見て取れます。

旧笹森家住宅

市指定文化財

宝暦6年（1756）の武家住宅台帳「御家中屋敷建屋図」に記載がある、弘前市内最古の武家屋敷です。現在地の北東（小人町）にあったものを移築、復元しました。

弘前の武家屋敷　サワラの生け垣に渋墨塗りの黒木塀。冠木門や薬医門を置き、屋敷前に観賞用の庭「ツボ」、奥の「カグヂ」（裏庭）は梅や柿など実のなる木を植えて食料の足しに。緑鮮やかなサワラの生垣は外から屋敷内が見えにくいのに対して内側から見通しが利き、その実は非常食になります。また、隣家との境には薬草となるクコの生垣にする習わしもありました。

弘前の小咄。

庭園

優美な曲線を描く池。ダイナミックな石。
常緑をたたえる木々。
自然と匠、2つの美が織りなす安らぎがあります。

大石武学流とは
礼拝石に達する大ぶりの飛び石など巨石を随所に配し、石灯籠を据える「大石武学流」は津軽地方で独自に発展した作庭の流派です。石の豪快さと奥行きの深さを要として江戸時代末期に興り、明治に隆盛極め、現代に伝えられています。

瑞楽園

国名勝

この地の旧家・対馬氏の庭園として明治23年（1890）から15年余りをかけて築庭。昭和に入ってから増改築して完成したものです。座敷から庭を望めば二筋の大きな飛石。奥には枯滝や枯池を設けて石橋をかけ、築山を築くなど大石武学流形式の代表的な庭のひとつです。

●瑞楽園☎0172-96-2744

藤田記念庭園

土地の起伏を利用した広大な庭は実業家の藤田謙一が大正8年（1919）に別邸を構える際、東京から庭師を招いて造らせました。低地部は池を中心に滝や八橋、ツツジや花菖蒲など景趣の変化が楽しめる池泉廻遊式庭園。高台は岩木山を眺望できる借景式の庭園です。

●藤田記念庭園事務所☎0172-37-5525

弘前明の星幼稚園・庭園（旧菊池氏庭園）

登録記念物

菊池氏の別邸があった場所で、昭和22年（1947）に主家が焼失。昭和29年（1954）に聖母被昇天会に譲られました。主家から池の岸辺に据えられた大きな礼拝石まで打たれた飛石や石燈籠、クロマツやサワラ、イトヒバなどの植栽に大石武学流の形式がみられます。現在は「弘前明の星幼稚園」の庭園となっています。

●弘前明の星幼稚園☎0172-32-6669

揚亀園

池の背後に控える築山の樹間からは弘前公園の樹々や岩木山を遠望できる、大石武学流の作風がみられる庭園です。礼拝石に向かって広めの間隔で飛石が打たれ、南側には富士山型の手水鉢を備えた「離れ蹲踞」。北側には「二神石」と呼ぶ石組。池を一周する園路には木橋や石燈籠、枯滝石組などの勝景が楽しめます。

登録記念物

●津軽藩ねぷた村☎0172-39-1511